

レファレンスツールの評価

田中 雅美（千葉県立西部図書館）

0 自己紹介

1 本講義の目的

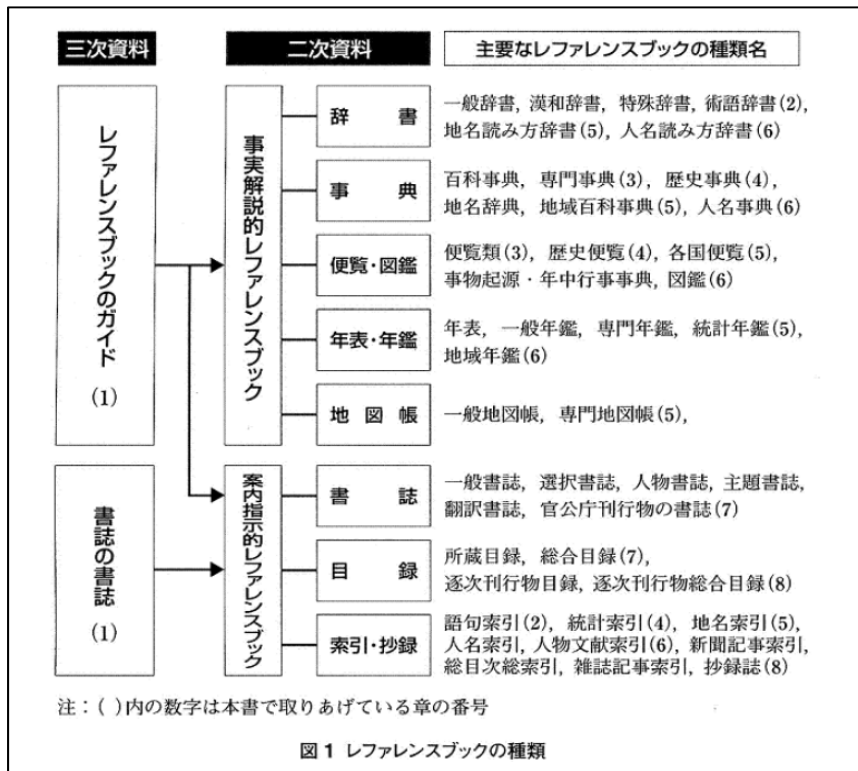
- ・レファレンスツールの評価の視点を持つ
- ・レファレンスツールの評価の判断基準を持つ
- ・今後のレファレンス業務の向上につなげる

2 レファレンスツールとは

レファレンスブックの要件

- （1）〈内容面〉 既知の情報あるいはデータを収録していること
- （2）〈形式面〉 参照しやすいように編集されていること
- （3）〈形態面〉 冊子体の本であること

レファレンスブックの種類



【参考1】
 『レファレンス
 ブックス 選び
 かた・使いかた』
 p6より

3 レファレンスツールの評価の目的・意義、評価の要素

評価の目的

- (1) レファレンスコレクションを構成するため
- (2) 特定のレファレンスブックの選択・受入れのため
- (3) 自館で所蔵するレファレンスブックとか新刊のレファレンスブックの情動的価値を理解するため、利用者にそれを紹介するため

「評価に際しては、既存のコレクションの中の個々の図書の情動的価値と利用者の要求とを十分勘案しなければならない。」【参考1】『レファレンスブックス 選びかた・使いかた』p15より

評価の意義

情報源それぞれの特徴を把握し、有効に活用できるように認識することが重要

* 〈善し悪し〉を判定したり点数づけをしたりする作業ではない

【参考2】『情報サービス概説』より

印刷媒体の情報源の評価の要素

【参考1】『レファレンスブックス 選びかた・使いかた』、【参考2】『情報サービス概説』より

① 製作に関わる要素

- ・ 編著者
- ・ 出版社
- ・ 出版年

② 内容に関わる要素

- ・ 範囲の選定
- ・ 扱いかた
- ・ 項目の選定
- ・ 排列方法
- ・ 検索手段
- ・ 収録情報の信憑性

③ 形態に関わる要素

- ・ 印刷
- ・ 挿図類
- ・ 造本

電子媒体の評価の要素

- ① データベースに蓄積されている情報
- ② 検索構造
- ③ 検索時間

4 評価の場面毎の観点

レファレンスコレクションの構築

自館のサービス方針／必要な分野と分量、全体のバランス／新しい情報／他の資料との比較

利用しやすさを考えた管理（配架場所、貸出区分、開架・書庫）

参考図書を別置して集中配架／一般図書と混配／一般と混配だが書誌索引類のみ別置
個人貸出可／持出禁止／あるいは複本整備
情報の古くなった資料は書庫へ／代替資料がなく利用が見込まれるものは開架でも

情報調査、資料提供

- ・限られた時間の中で何から調べ始め、どういう順で調べ進めるか
原則的には入門・基礎的・概要・広範囲な資料から専門的・詳細な資料へ
- ・利用者の要求に応えられるツール、信頼できる情報源

自館でツールを作成する（書誌索引類、パスファインダー）

既存のツールにないものはぜひ作成を→特に地域資料や自館の特徴を活かす内容
(千葉県立図書館の作成事例)

- ・千葉県歴史関係雑誌記事索引
- ・千葉県関係新聞・雑誌記事索引
- ・千葉県関係人名索引
- ・調べ方案内（パスファインダー）

《パスファインダーについて》

パスファインダー（Pathfinder：道しるべ）とは、「利用者が特定の主題に関する情報収集を図書館で行う際の、最初のとっかかりとなる図書館資料のガイドもしくはチェックリスト」【参考8】『パスファインダー・LCSH・メタデータの理解と実践 図書館員のための主題検索ツール作成ガイド』より

調べ方の手順を示したもので、文献リストとは異なる。

【参考9】『パスファインダーを作ろう 情報を探す道しるべ』

【参考10】『パスファインダー作成法 主題アクセスツールの理念と応用』

【Web1】レファレンス協同データベース

*「調べ方マニュアル」データを検索、参照可能

5 評価の参考になる情報源

【参考1】『レファレンスブックス 選びかた・使いかた 3訂版』

【参考3】『日本の参考図書 第4版』

【参考4】『日本の参考図書 四季版』

【参考5】『インターネットで文献探索 2016年版（JLA 図書館実践シリーズ 7）』

【参考6】『デジタル情報資源の検索 増訂第5版 (KSP シリーズ 18)』

【参考7】『使えるレファ本 150 選 (ちくま新書)』

【Web1】レファレンス協同データベース

*「レファレンス事例」データを、項目「参考資料」で検索可能

【Web2】リサーチナビ *「参考図書紹介」を検索可能

6 事前課題の結果から

個々のレファレンスツールの特徴、評価の視点

誤字、誤変換には要注意

- ・レファレンス協同データベース ×「共同」ではない
- ・「辞典」か「事典」か
- ・「体系」か「大系」か

7 自己研鑽、組織的な研鑽

- ・レファレンス記録の作成 個人メモから組織での記録へ
- ・研鑽の題材としてのレファレンス協同データベース
- ・自主的な勉強会
(事例) 三多摩レファレンス探検隊(1994~2002)
千葉県立図書館職員によるレファレンスサービス勉強会 (2013~2018.3)
- ・組織として業務の中に組み込む
(事例) 朝の打ち合わせでレファレンスブックの紹介
館内整理日に館内職員研修。 *パスファインダーは職員研修にも有効。
分野別選定と案内のメモを作成、共有 【参考11】『貸出と案内の技法』

8 参考文献

【1】 『レファレンスブック 選びかた・使いかた 3 訂版』(長澤雅男共著 日本図書館協会 2016.12)

※『情報源としてのレファレンスブック 新版』の構成を基本に改訂されたもの。

【2】 『情報サービス概説 (JLA 図書館情報学テキストシリーズ 4)』(小田光宏編著 日本図書館協会 1997.11)

【3】 『日本の参考図書 第4版』(日本図書館協会日本の参考図書編集委員会編集 日本図書館協会 2002.9)

【4】 『日本の参考図書 四季版』(日本図書館協会) (季刊)

【5】 『インターネットで文献探索 2016 年版 (JLA 図書館実践シリーズ 7)』(伊藤民雄著 日本図書館協会 2016.5)

- 【6】 『デジタル情報資源の検索 増訂第5版 (KSP シリーズ 18)』(高嶽裕樹著 京都図書館情報学研究会 2014.3)
- 【7】 『使えるレファ本 150 選 (ちくま新書 575)』(日垣隆著 筑摩書房 2006.1)
- 【8】 『パスファインダー・LCSH・メタデータの理解と実践 図書館員のための主題検索ツール作成ガイド』(愛知淑徳大学図書館インターネット情報資源担当編 鹿島みづき著 愛知淑徳大学図書館 2005)
- 【9】 『パスファインダーを作ろう 情報を探す道しるべ(学校図書館入門シリーズ 12)』(石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会著 全国学校図書館協議会 2005.3)
- 【10】 『パスファインダー作成法 主題アクセスツールの理念と応用』(鹿島みづき著 樹村房 2016.4)
- 【11】 『貸出と案内の技法』(植田喜久次著 日本図書館協会 1999.10)
- 【Web 1】 レファレンス協同データベース (国立国会図書館)
<http://crd.ndl.go.jp/reference/>
- 【Web 2】 リサーチナビ (国立国会図書館) <http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>